
きみ と 君

くじら じょにー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

きみと君

【Nコード】

N2090Q

【作者名】

くじら じょにー

【あらすじ】

1200字ほどのため、約5分程度で読めます。読み切り短編です。

主人公が体験する、ちょっと不思議な話。初投稿です。よろしくお願いします。

1、ぼく

ぼくは生きている。

毎日小学校に行つて、家に帰り、ご飯を食べて、お風呂に入り、寝る。

泣く、笑う、怒る。

息を吸つて、吐く。

ただ、それだけ。

「夕ご飯いるかお父さんに聞いてきて」

いつも、母さんはぼくを通して父さんと会話する。

「お父さん…」

「今日はいないよ」

いつてきますも言わずに仕事に向かうお父さん。
いつてらっしゃいも言わないお母さん。

ぼくは一体なんのために生まれてきたのだろうか。

【離婚】

たった二文字の現実が、小学4年のぼくに大きくのしかかった。

でも、そんなぼくにも唯一すべてを話せる人がいた。

夢の中で毎日会う女の子。

ぼくよりずっと年上で、お世辞にも美人とは言えない。

ただ、お父さんともお母さんとも違って、ぼくのことばをひたすら聞いてくれた。

認めてくれた人だった。

夢の中なんかじゃなく、きみに現実で会えたらいいのに。

何度も何度も、ぼくは冷え切った空気の流れる家で思った。

2、僕

苗字が変わって、何年目になっただろう。

僕は大学院生になり、修士論文を書き上げるため、徹夜の日々を送っていた。

「先輩、今日も徹夜ですか？」

連日徹夜の僕に、差し入れをもってきてくれる後輩がいる。

学部生で歳は僕の3つ下。

歳の割に子供っぽく、ちょっとぼつちやりしている。

表情がコロコロ変わり感情がむき出したため、台風のような女の子だ。僕にとって、妹みたいな存在だった。

「今日はこれ、持ってきました！」

「ありがとう」

昨日、僕が肌荒れがすると言ったからだろう。
ビタミン含有量の多いドリンクを差し出した。

なぜ、君が僕にこんなことをするのか。
答えは簡単だ。

『僕のが好きだから。』

嫌な気分はしなかった。

しかし、僕には遠距離恋愛中の彼女がいた。
だから、気持ちには応えられない。

「それでもいいんです」

君のそんな言葉を、心のどこかで待ちわびていたように。
遠くにいる彼女へ言えない弱音や、本音を、この子に打ち明ける日
々。

弱い僕は、とても最低なことをしていた。

3、君

君とお昼を食べていた、ある日。

とても不思議なことを言い出した。

「先輩は辛くないですか？」

「論文には毎日追い詰められてるよ」

「そうじゃなくて…」

「なに？」

「さびしくないですか？」

「？、さびしくないよ？」

君は、よかった、とつぶやくと何も言わなくなった。
その後は、卒業までゆるやかな日々が続いた。
そしてそれ以来、僕は君に一度も会えないでいる。

彼女の口癖を今でも僕は忘れることができない。

「先輩がいつも幸せでありますように」

4、きみ

ぼくは夢の中で毎日会っ、きみのことが好きだった。
彼女はぼくの未来を知っていた。

「必ず幸せになれる。きみのことをわかってくれる人と出会える」

「立派な大人にもなれるよ」

「さびしくなくなるよ」

ぼくがどんなにきみに救われていたか。
ぼくがどんなにきみにあこがれていたか。

なぜ、忘れていたんだ。

きみのことを。

君のことを。

僕は。

「私の名前は香織っていうんだよ」

「先輩、私、香織っていいいます」

次に君に会えるのはいつだろうか。
こんな僕を好きだと言ってくれた君。
あんなぼくを救ってくれたきみ。

僕は相変わらず幸せだ。

だから、今度は君と幸せになりたい。

君に会いたい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2090q/>

きみ と 君

2011年1月19日05時24分発行